

## 5 歯科衛生士学科における 客観的臨床能力試験 (OSCE) 導入の試み

渡邊美幸, 本間和代, 江川広子, 平澤明美, 川崎律子, 小野真奈美  
明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords : 客観的臨床能力試験, 学生, 評価者

### はじめに

近年, 歯科衛生士教育においても学生の臨床能力を客観的に評価する試験として, 客観的臨床能力試験 (objective structured clinical examination : 以下OSCEとする) が多くの歯科衛生士養成校で導入されるようになった。本学でも歯科衛生士学科2年生を対象に平成21年9月より導入し, 2年後期より開始される臨地・臨床実習に対する学生のモチベーションの向上に役立っている。

そこで, 歯科衛生士学科で実施しているOSCEを紹介するとともに, 学生を対象に行ったアンケート結果から, OSCE受験の効果を把握し, 今後の課題について検討したので報告する。

### 対象および方法

対象は, 歯科衛生士学科2年生56名で, OSCE受験終了後にアンケートを実施した。調査項目は, OSCEを受験してみたの感想, 臨地・臨床実習に向けての抱負等である。

平成22年9月16日に実施したOSCEの課題を表1に示す。各ステーションの評価者は2名で, 評価者1名が学生1名に対し, 評価およびフィードバックを行い, 学生は2名単位で次のステーションに移動した。

表1 各ステーションの課題

	課題内容
ST1	患者誘導
ST2	合着材および仮封材の練和
ST3	カートリッジ注射器の取り扱いおよび縫合の準備
ST4	困難抜歯後のメンテナンス

### 結果および考察

OSCE受験の様子を図1に示す。OSCEを受験してみたの感想は, 「緊張した」が57.1%, 「思い通りにできなかった」が46.4%, 「自分の力不足を感じた」が26.8%, 「予習・復習の重要性を感じた」が23.2%で, 初めての試験形態に戸惑い, 緊張により思い通りできなく, 悔しい, 難しいと感じた学生が多かった。自分の勉強不足を痛感し, 予習・復習の重要性を実感したことが伺え, 臨地・臨床実習に向けて学生のモチベーション向上につながったと考えられる。また, 臨地・臨床実習に向けての抱負は, 「予習・復習をしっかりしたい」, 「基本的なことを確実にできるようにしたい」など技術や学習面のことだけでなく, 「笑顔で患者さんに接したい」, 「挨拶は元気よくする」などの目標もあげられ, 医療現場で求められるコミュニケーション能力の重要性に気づいた学生も多かった。

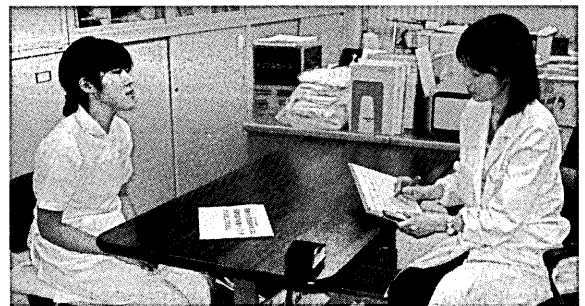


図1. 試験風景

### まとめ

OSCE実施は, 臨地・臨床実習に対する学生のモチベーション向上につながるものであった。今後はより効果的に実施できるよう, 実施時期や課題内容の見直し, フィードバックの方法を改善していきたい。